

都道府県・指定都市	徳島県
及び学校名 (生徒数)	徳島県立小松島西高等学校 (553名)

所在地：徳島県小松島市中田町字原ノ下28の1

電話番号：0885-32-0129

メールアドレス：komatsushimanishi-hs@mt.tokushima-ec.ed.jp

学校のホームページのURL <http://komatsushimanishi-hs.tokushima-ec.ed.jp>

【研究成果のポイント】

- 研究のキーワード：
 - ・教育課程への位置付けと教材の工夫
 - ・各学科や地域社会との連携
- ・外部人材活用
 - ・評価方法の検討
- 研究成果のポイント：
 - ・伝統文化教育の学校で位置付けの確立
 - ・伝統文化教育による生徒の興味・関心・態度の変容

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究課題

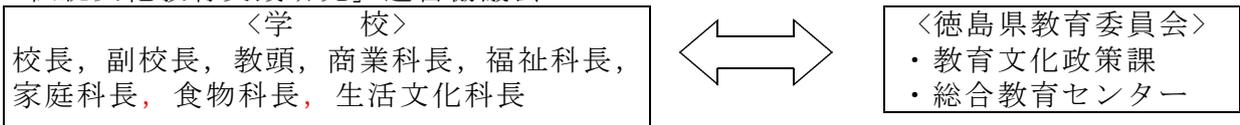
- | |
|--|
| 1 伝統文化と実生活の関連を考える視点の育成の実践研究
2 「藍染め」学習から、広く伝統文化全体を尊重する態度へ一般化する工夫の実践研究
3 外部人材の活用を含め、継続的な活動へ繋げるための指導方法計画、教材等の整理 |
|--|

(2) 研究課題設定の理由

「藍染め」を主とした学習を通して、郷土の伝統文化への関心・理解を深め、それを尊重する態度を育成するために、生徒の実態を踏まえ、学校全体の教育課程の中に位置付いた継続的で効果的な取組の在り方を研究する必要があると考えた。

(3) 研究体制

「伝統文化教育実践研究」運営協議会



(4) 2年間の主な取組

平成22年度	6月～・第1回運営協議会の開催 (年間計画の確認・実践の検証・評価方法について協議) (生活文化科) 6月～：「伝統工芸」の授業において「被服製作」と関連させ、藍染めの布を用いた衣装や作品を制作。(3年) 8月：藍染め体験 (県外の方々との交流、地域の人々や中学校との交流学习) (3年) 1月：「染色」の授業において、藍建ての実習と講義 (2年) →アンケート・感想文 (商業科との連携) 11月：「課題研究」の授業において藍染めストラップ商品開発 (雪花菜工房との連携) →アンケート 12月～1月：「家庭総合」の授業において藍染め体験学習 (1年) →アンケート (食物科との連携) 1月：「家庭基礎」の授業において藍染め体験 (1年) →アンケート (福祉科との連携) 10月～11月：「家庭総合」で藍染めクラフトボードの制作 (2年) 生活文化科3年生との連携→アンケート 2月：個々の事業についてのアンケート結果等を分析し成果を検証する。 ・第2回運営協議会の開催 (アンケート結果等の検証、次年度の取組の協議等) 3月・研究の成果の中間報告書を作成
平成23年度	6月～・第1回運営協議会の開催 (年間計画の確認・実践の検証・評価方法について協議) (生活文化科) 6月～：「伝統工芸」の授業において「被服製作」と関連させ、藍染めの布を用いた衣装や作品を制作。(3年) 8月：藍染め体験 (県外の方々との交流、地域の人々や中学校との交流学习) (3年) 10月～11月：校内外でのファッションショーや作品の展示・販売 (3・2年) →アンケート・感想文 (商業科との連携) 12月：「家庭総合」の授業において藍染め体験学習を実施 (1年) →アンケート (食物科との連携) 12月：「課題研究」の授業と卒業作品展で藍染め作品を利用したテーブルセッティングを実施 (3年) 2月：「ミニカフェ」で藍染めランチョンマットを活用。(2年) →生徒・利用者へアンケート (福祉科との連携) 2月：「家庭総合」の授業において藍染め体験学習を実施 (2年) →アンケート 2月：個々の事業についてのアンケート結果等を分析し成果を検証する。

・第2回運営協議会の開催（アンケート結果等の検証、今後の取組への協議等）
3月・研究の成果の報告書を作成し、発信する。

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫

①外部人材の活用と教材・カリキュラムの工夫

昨年度は、「染色」において、「藍建て」を中心として実習授業を行った。本年度は、その成果を検証し、「伝統工芸」において年度当初の「阿波藍の歴史」についての講義、「藍建て」実習後の復習，さらに「徳島の伝統文化・伝統産業」の講義や藍以外の伝統文化（大谷焼）の実習を計画・実施し，より知識・技能が統合するように改善を図った。

②各学科との連携

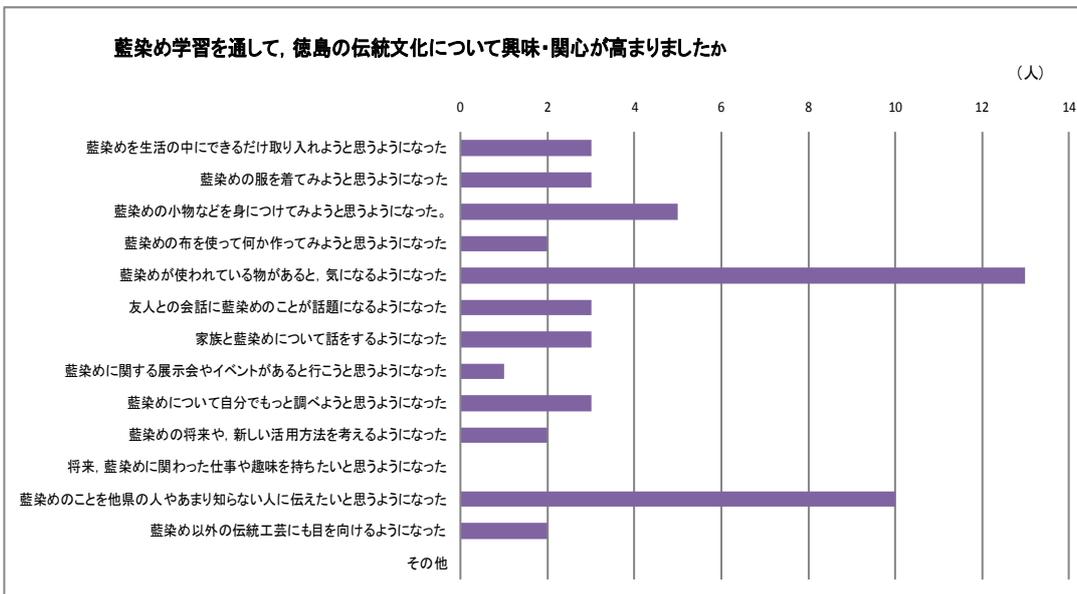
各学科において，1年目に藍染めの体験，次年度その活用を図るなど，計画的に連携した。藍染めを中心に，伝統文化教育の目的を学校全体で共有し，取組を広げた。

③伝統文化への興味・関心・態度の変容の検証を図る

アンケートの項目を生徒の実態や感想文，委員の意見から検討し，実施した。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果とその課題



「伝統工芸」の最後の授業において，具体的にどのように「興味・関心・態度」が変容したかを調査した。結果は，左の図の通りである。「藍染めが使われているものがあると，気になるようになった」，

「藍染めのことを他県の人やあまり知らない人に伝えたいと思うようになった」を選んだ生徒が特に多く，藍染め学習が，郷土の伝統文化を身近に感じ，それを大切に誇りに思う気持ちに繋がったと考えられる。また，食物科における調査では約80%が「藍染めランチョンマットはよいと思う」，約56%が「卒業作品展などのテーブルセッティングに活用したい」と回答した。伝統文化教育を学校全体で共有し，取組として広げることが，生徒の興味・関心を高めることにも繋がったと考えられる。

しかし，「将来，藍染めに関わった仕事や趣味を持ちたいと考えるようになった」を選んだ生徒は複数回答にもかかわらず，皆無であり，将来的に積極的にどのような関わりをもたせるかを考えることが課題として残る。

(2) 研究成果の意義

本年度の卒業生が，就職試験の面接で「授業で徳島の伝統文化である藍染めを勉強した」と答えたところ，面接官が大変興味をもち質問があり，「説明できる自分が誇らしく，徳島県人でよかったと思った。」と語ってくれた。このように，伝統文化を学習し，ファッションショーをはじめ地域や県外の方々との交流など様々な体験をすることは，伝統文化への理解と知識の充実に繋がるとともに，生徒の自信となり，郷土に対する誇りや自尊心を育み，心豊かな生活へと繋がると学校全体で共通認識ができた。

(3) 指定期間終了後の取組

この事業で確立した各学科，教科間の連携を深め，学校全体で年間指導計画に位置付け伝統文化教育を推進する。さらに，育てようとする生徒の資質・態度を明確にし，成果の検証と改善を図っていく。また，事業の成果や教育課程，教材等の情報を他校に発信し，県全体での伝統文化教育に資するように広報する。